



リタイアメントジャーナル NO49

2025年 新春号

<“りらいふ”憲章>

- 組織、肩書き、経歴にとらわれない自由な生き方
- 知識、経験、技術を生かして社会に貢献する生き方
- 初心に帰って新しい自分を発見する生き方

私たちNPO法人リタイアメント情報センターはこのような生き方を“りらいふ”と呼び、その生き方をサポートします



<目次>

1. R&I 第18期のご挨拶	(竹川理事長、阿賀副理事長)	P2
2. コラムお役立ちシリーズ「相続について」	(小山内 一得)	P3
3. 宇治拾遺物語-正反合の交渉術	(麻殖生 健治)	P5
4. コラム「お客様は神様か」	(ANA 総合研究所エッセイから転載)	P9
5. バリ島ウブドの日々③ ギャニヤールのバビ・グリン	(黒部 正也)	P11
6. バリ島ウブドの日々④ 深夜の言い訳	(黒部 正也)	P13
7. 2区間は難所が二つ	(鳥居 雄司)	P15
8. 北米1(世界1)になった途端「ジャップ!」と言われた	(赤神 潔)	P17
9. 第17期事業報告(要旨)	(事務局)	P21
10. 事務局からのお知らせ	(事務局)	P22



1. R&I 第18期ご挨拶

「人間味溢れる仲間と共にある幸せ」

竹川理事長、阿賀副理事長

理事長 竹川忠徳

(takekawa@vips.co.jp)

副理事長・関西支部長 阿賀敏雄

(aga1717hibari@icloud.com)

関係諸団体(キャメロン会・NPO 法人南国暮らしの会) の皆様方、並びに会員諸氏には平素よりお力添えを賜り、改めまして厚くお礼申し上げます。

私ども NPO 法人リタイアメント情報センターは今期も含めこの先数年は営利事業を行わず、会員の会費収取を撤廃いたします。従いまして、講演会、勉強会、落語会、ゴルフ会、音楽会、内外旅行等々の各種プロジェクト活動費用は、受益者負担とさせて頂きます。万が一諸活動に於いて剰余金が生じた場合は当該 NPO への寄付金として扱わせて頂きます。

従って、事務局の主要業務は「りらいぶジャーナル」の編集・発行(送)並びにアーカイブ作成・メンテナンスになりますが、発送は原則 E-メールとさせて頂きます。(印刷物必須の方は事務局にお問い合わせください)

ここで皆様方へのお願ひです。現在準会員の方々も正会員扱いにさせて頂いています。貴 E-メールアドレス及び親しいご友人方の E-メールアドレス(必ずご本人の許可をもらってください)をくりらいぶジャーナル>発送用にご登録下さい。

ということで、多くの会員の方々が燃るべきご年齢であることを鑑み、<スローライフ> (Google 検索: 効率やスピードを重視するのではなく、のんびりと過ごしながら人生を楽しみ、生活の質を高めようすること) を旨とした人間味溢れる活動を引き続き展開致したく存じます。

嬉しいことに、りらいぶジャーナル 48 号にご投稿下さった中野寛成顧問の「お正月と門松」を、新年を目前にして再度拝読させて頂きました。

『・・・松は枯れることのない慈悲の姿・・竹は真直ぐな性格の誠を表す・・梅は雪中でも咲き堪忍の様子』と夫々の植物

が持つ特徴をご教示のうえ、『仏さまの教えを要約しますと、慈悲、誠、堪忍の三つの教えを三徳と言い、八万四千の教えを一番分かり易く説明し、一口に表現したものが松竹梅です』とお示し下さっています。

皆様ご周知の「欲求の五段階説」ですが、マズローカ晩年になって、周りや自らを観察する間に、より人間力を高めた人の存在に気付き、神の域に近い6段階目の「自己超越の欲求」を発表したように、中野顧問は神ならぬ仏の例をもって示されています。早速、私も心の洗濯をすべく花屋さんに・・。
Smiled

また「他人様に喜んでもらえる場面があれば迷わず手を差し伸べて、わが喜びとするよう心掛けているところです」と話される伊丹淳一様や、十数年前からマスコミに先立ち「キヨウヨウ」と「キヨウイク」を広められた木津谷文吾様がこの 2 語で多くの人助けをなさっていること等を思い、当該 NPO 法人の皆様方の人間力を日々嬉しく味わっております。

更に、りらいぶジャーナルのアーカイブを訪ねてみたところ約 70 人近くの投稿者名がありました。一部の方をご紹介いたしますと、18 年近く前の新聞発行の頃からご投稿頂いている、渡嶋ハリオ夫顧問、中野寛成顧問、宮崎哲郎理事、山本昌弘理事、麻殖生健治様、國米家己三様、松永和子様・・この方々の文章には、「自分以外の人(家族のみならず見知らぬ人々)や社会に貢献したいと感じる欲求がおありになる」ことが読み取れ感激です。少々濃淡はありますが(笑)

次に「りらいぶジャーナル」10 周年記念誌のアーカイブを訪ねてみたところ、最近キャメロン会々長に就任された河野光一様、及び直近に NPO 法人南国暮らしの会理事長にご就任の大野悦子様が、共に 8 年前の「りらいぶジャーナル」10 周年記念号に祝辞を賜った方々だったのです・・。これを機に、夫々の会の会員数を鑑み、大野様・河野様のお二方にご相談のうえ来春には、

Slow Life Union を立ち上げ、

Be Worth Doing (やりがいのある充実人生) を目指したいものです。

タイミングよく、キャメロン会々長・河野光一様より【キャメロンハイランドのホットニュース】を拝受。「①9月の突風で、ゴルフ場の大木数十本が倒れ、一時、部分的にクローズ ②10月の豪雨で崖崩れにより通行止め、町は一時孤立」とのことです。一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。



後期高齢者集団にどこまで力があるか疑問ですが、今後関係諸団体での困りごとが生じた場合には、お互いに支援させて頂く仕組みを講じたいものです。

蛇足ですが、マンション図書室で目に入った「幸福論」 フランスの哲学者アランによれば、

「もしその場の雰囲気が不機嫌になつたら、あなた一人が微笑むと 周りが和む」とのことです。

そのまた蛇足ですが、
「幸福だから笑うのでない笑うから幸福なのだ」
アラン

皆様、本期は Smile で！



2. コラムお役立ちシリーズ

“相続について”

小山内総合法務事務所

小山内一得

<ご稿者のご紹介>

一橋大学卒業。パナソニック（旧松下電器産業）入社。海外事業を経験後、法務部門に異動。事業場法務責任者を歴任。事業契約交渉、紛争解決、会社設立、法務教育、コーポレートガバナンス等各種経営法務の実績を積む。定年退職後、小山内総合法務事務所を設立。相続・事業承継専門の行政書士・ファイナンシャルプランナーとして活動中。
著書：「お金と法律の専門家に学ぶ家族から喜ばれる相続の極意」（Kindle 版）

<はじめに>

相続は誰もが直面する重要な事柄でありながら、事前の準備や正しい知識が十分でないことも多い分野です。本記事では、相続に関するルールや税金など、問題となる事例を具体的に挙げ、相続の基本について分かりやすく解説したいと思います。少しでも多くの方が安心して相続に臨むための一助となれば幸いです。どうぞよろしくお願ひ致します。

初回は、遺言書の作成について説明させていただきます。遺言書の作成とは、遺言者が自分の意思を書面に残すことにより、相続人間の遺産の分け方を予め決定することを言います。遺言書は財産の帰属を決定する法的な効力を有するものです。従って、法律で定められた厳格な方式に則って正しく作成しなければ、せっかく作成しても効力が発生しません。それに加えて、内容が明確であること、相続人の遺留分権を侵害しないこと、不動産の共有は避けるべきであること、納税資金の確保まで考慮すること等々、様々な視点からトラブルの元を作らないように作成することが必要です。遺言書は、



＜勉強会の風景＞

財産を残す人の意思を実現することと、親族間の争いごとの発生を防止することと、時間が限られている相続手続きをスムーズに進めることのために、是非とも作成することをお勧めしています。ここでは、遺言書にまつわる問題になる例をいくつかご紹介します。

1. 方式に従った遺言書でない場合

正しい方式と内容を守った遺言書でない場合、その遺言書の有効、無効について相続人間で争いが生じる元になってしまいます。そうなると、それまで何の問題もなかった相続人間の仲が険悪になってしまふということが起こり得ます。正しい方式に従った作成をすることが重要です。

2. 認知症になってしまったら遺言書は作れない

遺言書の作成は法的な効力を発生させる行為ですので、明確な意思表示ができる状態でないと作成できません。つまり、遺言する事項を具体的に決定し、その法律的な効果を理解する能力が備わっていることが必要です。ということは、認知症になってしまったら作成することはできません。早くから遺言書を作成することをお勧めします。後に考えが変わったら書き直すこともできますから心配いりません。

3. 法定相続分では解決しないことがある

たとえば自分の子供は2人だから、法定相続分に従って、2分の1ずつ分ければ良い、と考えておられる方がいます。遺産が現預金だけだったらそれも可能かもしれません。しかし、遺産に不動産がある場合にはそうはいきません。2人の子供のどちらに不動産を相続させるか、それに見合った金融資産をもう片方に相続させるかを遺言書で定めなければなりません。

不動産を共有にするという方法もあり得ますが、その方法を探ってしまうと、売却や建物の建築、賃貸など、共有者全員が合意しないとできなくなってしまいます。世代が下って4分の1、8分の1などと共有者がねずみ算式に増えてくると、管理不能に陥ってしまいます。ですので、共有は避けるべきです。元気なうちに子供達と話し合って、納得を得た分け方をして、それを遺言書に残すべきです。

4. 相続人が認知症になってしまった場合

母親と子供2人が相続人となる場合で、父親が死亡し、その遺言書がなかったとします。その場合には相続人3人で遺産分割協議書を作らなければなりません。しかし、もしその時、母親が認知症になっていたら、母親は遺産分割協議ができません。その場合には、母親のために成年後見人を付けなければなりません。そのため、高額の費用が発生してしまいます。父親が遺言書を作つておけばこのようなことは避けられたのです。父母の死亡時期が逆のケースでも同じことになります。

子供達の相続にまつわる争いのほとんどは親が原因だと言われます。争いのない相続を実現するためには、相続のルールを正しく理解し、内容を十分吟味した上で、適正な手続きに従つて遺言書を残すことが必要です。当事務所では、これまでの多くの相続手続きや相談事例を基に、次の世代の方々の間に争いの種を残さず、遺言者の意思が実現でき安心できる遺言書の作成をお手伝いしています。どうぞ、お気軽にご相談ください。

＜事務所紹介＞ 小山内総合法務事務所

HP: <https://osanai-houmu.com/>

eメール : osanai.kazue8@gmail.com

電話 : 042-773-3823



3. 宇治拾遺物語-正反合の交渉術

元立命館大学大学院教授
麻植生健治

【本稿は昨年 10 月に関西地区で開催された、元立命館大学大学院教授の麻植生健治様のご講演の一部を収録して皆様にご紹介するものです。】

講師 元立命館大学大学院教授
麻植生健治先生

テーマ：「絶対面白い宇治拾遺物語」
就話集の宇治拾遺物語がどんな展開をするのか。
正反合の交渉術をつかって解き明かそう

日時：2024年10月11日(金)
開場13:30 開演14:00 終了15:30
会場 ベルウッド
06-6840-0606
参加費 1,500円（ドリンク付き）

主催 NPO法人リタイアメント情報センター
理事長竹川忠徳 副会長中野寛成 関西支部長阿賀敬洋

はじめに説話とは、民間に伝わった神話、伝説、童話などを、取りまとめたものが、一般的であるが、その中でも、宇治拾遺物語は、仏教説話といわれ、究極的には、仏の教えを理解させるという目的もあると言われている。

劇的な構成と交渉を主とした展開が筋の中心となっている場合が多い。現実とはかけ離れた「驚き」のエピソードも多いが、なかには、「驚き」だけでなく、エピソード全体が、「正反合」の形をとっているものもあるのが、一番の特徴である。

1. 宇治拾遺物語の成立

宇治拾遺物語は、鎌倉時代の初期に成立したといわれている。作者の宇治大納言源隆国は、高齢に加えて、夏の暑さをきらって宇治にこもっていた。彼は、身分の上下に関係なく人々を呼び集め、皆に話をさせてまとめたのが、この物語であると言われている。ただし、こうした成立の事情は、この本の「序」に書かれているが、必ずしも明確ではない。読み伝えられていく間に内容が変化したり、書き加えられたりしていることも、事実である。

2. 正反合の交渉

正反合の交渉は、西欧では、弁証法と呼ばれており、一般的によく使用されている。介証法の定義によれば、ある物の対立や矛盾を、克服、統一することによって、より高次元の結論に到達することができるという発展的な考え方である。正反合は、これをより具体化したもので、交渉者の一つの主張「正」と、他の交渉者の判断である「反」が一段高い次元で統合する過程(止揚ともいいう)であるといわれる。以下、宇治拾遺物語の中の典型的な正反合をとりあげてみよう。

3. 第一話

和泉式部の家で読経した道命を道祖神が聴聞 藤原道綱の子に好色な僧、道命がいた。和泉式部と恋仲で彼女の家に泊まった。夜半目覚めて、法華経を心澄まして詠んだ。明け方に全部読み終えると、人の気配がした。「誰か?」と聞くと、五条の道祖神だとう。「一体何事か。」と聞くと、「貴方の読経は今度生まれ変わっても絶対忘れる ことはない。

すばらしいものだ」と言う。

この第一話は、解釈が難しく、どう理解してよいか難しいのであるが、次の道祖神の話を聞くと、「正反合」に当てはまるのだと理解できるようになっている。

道祖神は、続けて言う。「貴方が、正式に身を清めて、法華経を読む時は、梵天、帝釈天など、地位の高い神々が、身を清めて、かしこまってきておられる。私などは、近寄ることもできません。ところが、今夜は行水もなさらず、和泉式部の住居で、読まれたので、私もじっくり聞けました。高い身分の神々がおられず、法華経の真理がそのまま充分にわかりました」と言った。

「正」としては、普通、法華経を聞くときは、身をきよめて、格式ばっていて、聴く人も高僧が中心である。しかし、「反」の夜中なら、法華経を鼻歌のようにきいてしまった。しかし、その結果、「合」として、どんな場面でも、形式ではなく、法華経の内容はすばらしいものであると、身にしみて感激した。

生まれ変わっても、忘れない経験をしたという。初めて法華経の真髓に触れることができたと感激していた。



4. 第 13 話

稚兒が桜の花の散るのを見て泣く 田舎出身の稚兒が、桜の咲いているところに、強く風が吹くのを見て、さめざめと泣いていた。僧が「桜は、はかないもので、短い間に散る。それだけだ」と慰めたが。稚兒は、「桜が散るので、泣いているのではない」という。

「私の父の作った麦の花が、此の風で散ってしまい、実がならないと思うと悲しい。」としゃくりあげた。ここでは、「正」は、桜の花の散るのを見ること、「反」は、泣いている稚兒が、桜ではないと言ふ。「合」は、麦の花が散って将来食べものがなくなることであろう。麦なので、春に花が咲く訳である。

5. 第 16 話

尼が地蔵に出会えた ある年老いた尼が、地蔵菩薩は朝方、どこへでも世界中をめぐってくれるということを聞き、お目にかかりたいと、さまよっていた。「正」狡猾な博打ちがいて、尼にどうしたのかと聞き、地蔵がいる場所を知っていると、近くの家へ連れていった。その家には、地蔵と言う名の子供がいた。

博打うちは、尼の着ていた紬の着物をうばい、逃げていった。親たちは、尼が息子を拝見したいと座っているので、訳がわからない。そのうち、10歳ばかりの子供が、かえってきたのを見て、親が、「あれが地蔵です。」と言うと、尼は転がるように近づいて、拝んで地面にひれ伏した。「反」子供は、木の小枝をもって遊んでいたのだが、小枝が自分の額をひっかいた。すると、頭が額から裂けて、地蔵の顔があらわれた。尼は感激して涙をだして伏し拝んだが、そのまま息絶えて極楽にいってしまった。「合」

6. 第 104 話

猟師が普賢菩薩を射た 愛宕山で修業しているある聖は、近くに住む猟師が尋ねてきたので言った。「私も長い年月法華經を、読誦して来た甲斐があって、この頃夜に、普賢菩薩が象に乗って姿をみせるようになった、貴方も一緒に菩薩を拝みなさい」猟師は、「わかりました」といって、聖に仕えている童に聞くと、童も数度拝見したという「正」夜中過ぎになると、光が差し込んで、音楽が聞こえて、言われる通り普賢菩薩が象に乗って現れた。

しかし、猟師は、聖が長年修業しておられるから当然だが、童や私に姿をみせるのは、いくら考へても納得できないと思ふ、試してみようと、部屋の後方からとがり矢を射た。すると、普賢菩薩にあたったようで、火が消え、大きな音をたてて、何かが逃げるような感じがした。「反」聖は、「何をなさ

るか。」といって、半狂乱になって泣き惑う。猟師に一体どうしてくれるのだ」と、つめよう。

猟師は、「私のような、罪深いものにまで、姿をみせておられるので、本物かどうか試してみたのです。本物なら、矢があたることも、ありますまい」と、言った。夜が明けると、菩薩のいた場所から、血痕が続き谷底で、大きな狸が死んでいた。聖の目からうろこがおちた。「合」

7. 第 164 話

亀を買って自由にしてやった インドの話である。ある人が、財宝を買うために、息子に50貫をもたせて、使いに出した。「正」息子は、大きな川に出て、何かを積んでいる船に出会った。船から、亀が何匹も首を出しているので「この亀たちをどうするの」と聞くと、全部殺して加工するのだという。息子は、かわいそうに思い、銭50貫で全て買い上げ、川に放してやった。

息子は、自分に持たせた大金を全部亀と交換してしまったので、親はどんなにおこるだろう。そうかといって、親のところへ、帰らない訳にもいかず、とにかく帰路についた。

途中で、さっきの船は転覆したよと、言ってくれる人がいた「反」親の家へ帰りついで「あの金は全て亀に変えてしまいました。」と言おうとしたところ、親の方が先に、「どうしてあの金を返しにきたのだ。」というので、「そんなことはしていません。」と言うと、親の言うのは、「さっき、黒い着物を着た5人の男が、銭を10貫ずつ届けにきた。」と銭をみせた。まだ濡れている。

実は、買ってやった亀たちが、船が転覆して、沈んでいくのをみて、銭を全部救い上げて親のところへ、息子が帰るまえに届けたのであった。「合」

8. 最終話

悪党と孔子の問答 宇治拾遺物語では、第1話から、「正反合」であり、また。今まであげてきたように、「正反合」の交渉が、中心テーマを形作ってきた。そして、最終話も、「正反合」の交渉に、関わっている。具体的には、単純な「正反合」ではなく、「正反反」とも、言ふべきかもしれない。

こういう使い方もあるのだと、理解してほしい。さて、中国の、柳下景は、春秋時代の賢者で、孔子とは、おおきく時代がはなれていますので、この話は、フィクションである。

中国の柳下景は、有名な賢人であるが、弟は、悪人で、盗みなどで、悪の限りをつくしてきた。孔子は、その悪事を止めてやろうと、兄の柳下景に話をするが、兄は、とても無理だという。しかし、孔子は、自信をもって、弟に会いに行く。ところが、弟は、頭髪を逆立て、怖い顔をした鼻息のあらい



男だった。孔子は驚いたが、穏やかに、「人が生きるために道徳を尊重せよ。ほしいままに悪事をはたらくと、最後には、駄目になってしまふ。善に従うのが良い」といった。

「正」ところが、悪党は大笑いした。

「孔子の言うことは一つもあたっていない。天下を徳で治めようとした堯舜の子孫には、領地がない。賢人という伯夷や叔齊は飢え死にした、孔子の最高の弟子顔回は短命、了路は殺された。ところが、俺のように、悪事を好んでも災いはこないので。ほめられても、そしられても、数日で消えてしまう。だから、むしろ、自分の心に従っていきるべきだ。といった。孔子は何も言えない。また曰く。「そもそも孔了も、二度魯国を、追い出されているではないか。

ひとつも、役にたつことはできない。」「反」孔子は、二の句が告げず、逃げる様に席を立った。外へでて、馬に乗ろうとしたが、鎧を踏み外してしまった。手綱もつかめない有様だった。「反2」孔子は、魯の國の人で儒教の祖である。政策を説いて遊説したが、結局入れられず晩年は祖国で、弟子の教育に専念し、論語を書いた。

定式的には、本来は、「正」の後に「反」がきても、「合」で、孔子は、偉大だったという表現が普通だが、此の最終章では、孔子の偉大さの現状は、未だ「反」に負けるという段階であり、「合」がなくて、落馬する程度であった。

その後、孔子は一層精進して、「合」となる希望はある。普通なら、孔子の一言で、悪党が収まる筋書きを想像するのであるが。「正」が「反」に届かない時もあったというわけであろう。おわりに 初めにのべたように、「正反合」以外にも、面白い話が、色々ある。面白さの点では、「こぶとりじいさん」の昔話や、「おどろき」の話では、道長の飼い犬の超能力や、平凡な木こりが、素晴らしい隠し題の短歌を詠むエピソードが有名である。

しかし、一般的には、「宇治拾遺物語では、「正」と「反」が交渉して、「合」を達成するというエピソードが、主題となっているのである。歴史的にみると、近代では、資本主義の成立そのものが、「正反合」であった。即ち、封建時代の余剰資本は、貯まっているが、使われず、「正」となる。一方、農民の労働力は、有効活用されていない「反」となり、両者が交渉することにより、産業利潤を生む資本主義経済が、飛躍的に発展していく。さて、現代では、ロシアをはじめとする「正」の勢力が、軍事面で「反」と戦っているが、何の結果もでていない。これを両者が、冷静に交渉することにより、止揚した「合」を見つけるべきであり、それ以外に解決の道はないだろう。

<参考文献>

- ・角川文庫 伊東 玉美編「宇治拾遺物語」
- ・2019年 新典社 山岡 敬和 「説話文学の方法」

<企画> 阿賀 敏雄、編集 石尾賢一

<発行> NPO 法人リタイアメント情報センター

<講演会風景>

・・・・・当日の風景・・・・・







4. コラム「お客様は神様か」

坂下 正憲
(ANA 総合研究所客員研究員)

(最近「カスハラ」が話題となっていますが、古今東西を問わず勘違いから起こっている問題のように思われます。以下、ANA 研究所エッセイからの記事を転載)

「お客様は神様です」。
国民的歌手三波春夫の有名なフレーズで、これが接客の王道とされてきた。
そして、サービスを提供する方も受ける方もお客様は神様なんだと思う思いが定着し、お客様が何をしても許されるとの風潮が蔓延してしまっている。

特に日本の航空会社ではサービスの質に対する利用者の期待度も高く、それを超えたサービスを提供しようと努力する航空会社の姿勢もあって、ますますその傾向は顕著なものとなっている。

そして初めは感動してもらえたサービスもいつの間にかあたり前になり、更に高品質のサービスを利用者側が求めるようになっている。利用者が自分は神様と思い込み、更にわがままに横暴になり、やってもらって当たり前、思い通りにならないと、怒鳴ったり、キレたりする光景を良く見かける。

しかしながら、本当にお客様は神様なのか？ 三波春夫は、「舞台というものは真剣勝負であり、雑念があるとお客様に喜んでもらえる舞台を務めることができない、あたかも神前に立った時のように澄み切った心で歌わないといけない」、つまりお客様を神様に見立てて雑念を払って歌うと言う意味で「お客様は神様です」と言ったわけで、決してお客様イコール神様と言う意味ではないと 三波春夫の長女、三波美夕紀さんは言っている。

また、顧客満足度ナンバーワンのビジネスホテル、徹底して IT 化で人的サービスを最小限まで省いて宿泊料を安くしているスーパーホテルの山本梁介会長は、利用者の対象をビジネスマンに絞り込み、リピーターを増やしていると言う。利用する側もその施設のサービスコンセプトに納得して宿泊しているので満足度も高いということになる。

山本会長は、スーパーホテルのサービスコンセプトに満足できない利用者には、他のホテルを利用するように案内していると言う。

自分たちのサービスレベルをお客様に合わせるのでなく、

サービスレベルを承認した利用者に満足してもらい、WIN-WIN の関係を築いてビジネスを拡張していくスタンスである。

これまでにも、ある国内の航空会社が「客室乗務員の役割は保安要員であり、サービスは補助的なもの」と位置付け、手荷物などは利用者の責任において収納し、客室乗務員は手伝わない、また機内でのクレームは受け付けない等というサービスコンセプトを明確にした。

これが従来の日本の航空会社の常識から逸脱した内容ということで物議を醸した。ただ、これも言葉使いは別にして、自分たちのサービスを理解し納得した利用者に絞り込んでやっていくのであれば何の問題もないし、もともと「空飛ぶバス」、「空飛ぶ電車」を自負しているこの航空会社としては今更説明しなくてもわかってもらえているとしていたはずだ。

しかし、勘違いして利用してくる乗客があまりに多いので、改めてサービス方針を明快にしたというだけのものであろう。言われてみれば、京阪電車の車掌さんに手荷物を棚に上げてくれと乗客がお願いしている光景は見たことがない。

先日、某タレントが福岡から東京まで同社を利用した時に、保冷材の入ったプリンの収納場所でもめ、結局、東京に着くまで膝の上に持っていたという話があった。搭乗したそのタレントが座席上の手荷物入れにプリンを入れようとしたところ、客室乗務員から保冷剤入りのものは収納できないと注意された。

「どうすれば良いのか」という問い合わせに「前の座席の下に置いていただくか膝の上でお持ちください」と案内された。隣の席が空いていたのでそこに置いても良いかと聞くと「1 席分の料金をいただきます」と言われ、タレントが料金を支払うと言うと「機内では扱うことができないのでカウンターでお願いします」と言われた。

これを見かねた上司の客室乗務員が「本日は特別に空いている席において下さい」と案内したが、収まらないそのタレントは、東京まで膝の上に置いていたということである。ここまで感情がもつれた要因は何なのだろう？ 最初に客室乗務員から注意された時にタレントは「そんなことは搭乗前に言ってくれれば良いじゃないか」と発言し、客室乗務員は「搭乗前の案内は安全に関する事を優先して案内しており、持込手荷物に関して全ての説明を事前にすることは時間的に不可能なので、こうして機内で案内している」と答えたとのことである。

このやりとりが原因で、ボタンのかけ違いが発生したので



はないかと考える。いくらサービスコンセプトを明確にしている航空会社の客室乗務員と言えども出来ることならお客様に喜んでいただきたいと言う気持ちで業務に携わっているはずである。最初に注意された時点でそのタレントはムッとして「先に言ってくれれば良いじゃない」と言ったが、その言い方に客室乗務員が態度を硬化させたことはなかっただろうか?

持入手荷物といえばANAにも参考事例がある。お父様を亡くされたお客様が納骨のため搭乗された時のことである。骨壺が他のお客様に嫌な思いをされるのではないかと、ご遺族の方が身を小さくして膝に抱いていた時に、客室乗務員から「離陸時は手荷物を前に座席の下に置くように」と声を掛けられた。

そこで、ご遺族の方は「すみません。実は骨壺なので下には置けません」と小さな声でと答えたたら客室乗務員が「失礼しました。よろしければ前の席が空いているのでそちらに座っていただきましょうか?」と言って、骨壺にシートベルトをかけてくれたという。

お客様はこの気遣いに感激された。さらに飲み物サービスの時に、故人の好きな飲物を聞いてくれてその席に置いてくれたというのだ。お客様はこのサービスに感動されておれの手紙を書かれた。これは先のプリンのケースと比べると対極の位置にある。筆者が担当しているホスピタリティ演習の学生に言わせると、マニュアルどおりに接客するのがサービスで、マニュアルを超越した接客がホスピタリティなのだとさうである。その伝でいくと、感動するようなホスピタリティを体験するためには、サービスの提供者側をその気にさせることが肝要ということになる。

したがって、接遇のプロをその気にさせるためには、サービスを享受する方にも工夫があってしかるべきなのである。「俺は客なんだからやってもらって当たり前」というような態度では、マニュアル通りのサービスさえあやしいこととなる。

サービスを享受するプロとしては、まず相手の事情を理解する。そしてサービスを創造していく過程で自分も参画し協力していくのである。国際線に搭乗して客室乗務員に飲み物や毛布などを頼む時にも、客室乗務員が多忙を極めているときに頼むのと、「何かご要望はありませんか」と手すりで機内を巡回しているときに頼むのとでは、その結果において雲泥の差が出るはずである。

ちょっと相手のことを考えるだけで、その後の長い飛行が楽しいものになるか、不満が鬱積して不愉快な時間になるか変わってくるのである。

話がそれるが、吉川英二氏の名著『三国志』から引用してみたい。すなわち、関羽が右ひじを毒矢で負傷してなかなか傷が癒えずに困っていると、当時唯一の医師と言われた華陀が現れて肘の骨を削るという荒療治で治してしまう。その手術を、囲碁を打ちながら受けた関羽が感心して「貴殿は流石に天下第一と言われる名医である」と讃めると、華陀は「いえいえ將軍こそ平気でこの手術を受けられた。それこそ天下の名患者でござる」と答えたという。

その答えに 関羽は喜び、「天下の名医と天下の名患者が相手だと病も退散するしかないわい」と咲笑したことである。いかに天下の名医といえ、その施術を受ける方が凡人ならばその成果も限定されることになるのではないか、関羽のような患者であればこそ華陀も実力を遺憾なく発揮できたのではないか。あるいは華陀も予想以上の結果に驚いていたかもしれない。

最近、札幌の量販店で係員の対応に怒った客が店員を土下座させ、その客がその様子をネットにアップして強要罪で逮捕されるという事件があった。これなど論外ではあるが、実際、店とお客様のトラブルには枚挙にいとまがないのが現状だ。細かな事情はともかく、どうすればサービス提供者とWIN-WIN の関係になれるのかということを利用者側も考えるべきところであろう。

もともと利用者が感動するホスピタリティは、接遇のプロ達がそれぞれ創意工夫してマニュアル以上のものを提供してくれているサービスではないか。サービスを受ける方が提供者側の事情を理解し、協力していくならばさらに感動するサービスを引き出すことができ、双方に想像もできないようなホスピタリティを創造していくことが可能なのである。そういう意味ではお客様は神様というより、お客様は感動のホスピタリティ創造のパートナーであると言うことができよう。

完

<本コラムはANA 総合研究所エッセイから
転載しています。>



5. バリ島ウブドの日々③ ギャニャールのバビ・グリン “Prisoner of the charm of Bali” 黒部正也

朝六時、私は妻を誘ってギャニャールの朝市見物に出掛けた。ギャニャールは定宿のあるウブドを含む県庁所在地で、市場は規模の大きさと食べ物が豊富なことで有名だ。

ロータリーで市場行のベモを待つ。ベモは小型の乗り合いバスで、行先の表示はない。車体の色と走っている方向で判断する。

2010年5月9日、日曜日、ウブドは夜明け前に小雨があり、路面は濡れていた。妻のヨウコは、二日前にウブドの民宿に到着した。十九日まで一緒に民宿暮らしをする予定である。

「ベモがやってきた。乗り合いタクシーだ。」

「ギャニャール行きだよ！」
と、路上でブブル（朝食用のお粥）を売っているなじみのおばさんが私に教えてくれた。

乗り合わせたウブド市場帰りのおばさんと妻の会話が弾む。妻はインドネシア語が少し話せる。おばさんは55歳と言ったが、17歳年上の妻に近く見えた。

「あんた、40歳くらいだねえ」

「まあ嬉しいわ、有難う。何時に朝市へ出掛けますの？」

「朝の四時だよ。あんたは暇そうだね？」

「いいえ、日本へ帰れば掃除、洗濯、料理等忙しいわ！」

ベモは30分でギャニャールへ着いた。運転手は親切なおじさんで、朝市の入り口まで案内してくれた。

日曜日とあって、物凄い人出だ。狭い通路を押しあいながら前へと進むと大きな建物にぶつかった。薄暗い屋内をよく見ると、果物、野菜、お供えの花籠等がうす高く積まれている。

人波に押されて更に奥に進んだ。すると、若い男が包丁を振り上げ、大声で私たちに呼びかけてきた。

「〇△▽…………」

男の左手には生きた鶏が握られていた。脇には、金網の囲いの中に鶏が無数に詰め込まれている。私と妻は顔を見合わせ、見てはいけないものを見てしまった気分になった。

「外へ出ましょうよ」

と、妻に促された。むせかえるような臭いと喧騒で私も頭が変になっていた。

建物の外に出た。狭い通路の両側に果物、野菜、お供え用の花、日用雑貨等の店が並び、売り手の女性が甲高い声で客を呼ぶ。

「これ、見て！」と、妻が素っ頓狂な声を出しながら、私のシャツの袖を引っ張った。振り向くと、八畳くらいの青いビニールシート一面に巨大なバナナの房が無数に積み上げられていた。「一房に60本も付いていますよ！」と、妻は驚いた。

ウブドの市場でもバナナの大房は見かけるが、こんなにたくさん並んでいるのを見るのは初めてだ。南国の強い日射しの下で、大房バナナに囲まれ、小さな赤い椅子に腰かけた年配女性が、悠然と二人の青年に指図しながら大房バナナを売っていた。

お腹が空いたので、ギャニャール名物のバビ・グリン（子豚の丸焼き）を食べることにした。バビ・グリンは、バリ島のお祭りの際食べる料理で、お祭りが特別の店でないと食べられない。

ところがこの市場では、通りの食堂でいつでも気楽に食べることが出来る。

私と妻は、市場の入り口近くの大きな店に入った。店先に子豚の丸焼きが、でんと飾られている。精悍な風貌のおばさんが大きな包丁で切りわけ、小皿に乗せて客へと運ぶ。

店に入ると、薄暗い店内に簡素な四人掛けのテーブルが十卓ある。客は一杯で、店員が走り回り異様な熱気が溢れている。しばらく待って席が空いたので、二人は座った。

「ここを大きく切ってください」

と、赤茶色にこんがり焼かれた子豚の皮を指さして、大きさも示した。

細身のおばさんが手際よく皮を切り、身を添えて皿に盛った。小太りの若い店員が、勢いよくテーブルへ運んできた。

「皮がパリパリして、香ばしいわ！」

と、ヨウコはご満悦。私が初めて口に入れた内臓も、複雑なスパイスが効いている。

子豚のお腹に香辛料や内臓を詰め込み、独特のスパイスを塗りながらじっくり丸焼きにすると、ガイドブックに記載されている。

ギャニャールの店では、現地の客は五千ルピア（五百円）を支払い、切り取った皮と身を油紙に包んで、テ



イクアウトしている。

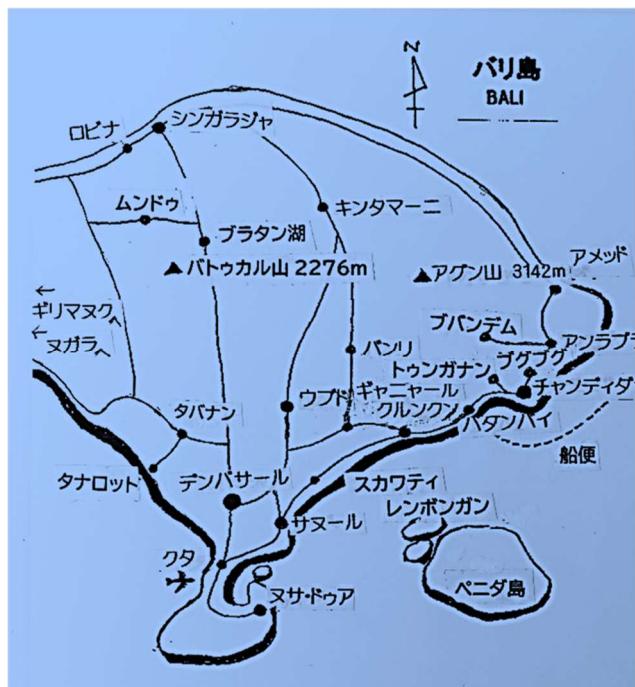
「お二人で四万ルピア（四千円）頂きます」と、おばさんが少し思案した後言った。四倍も、と思ったが、多分こんがり焼いた皮の部分が特別に大きかったせいだと納得した。
初めて食べたバビ・グリンは、想像以上の美味しさだった。私と妻は、おばさんに笑顔で丁重にお礼を言いながら店を出た。



バナナの大きな房



店頭に置かれたバビ・グリーン





6. バリ島ウブドの日々④

深夜の言い訳

“Prisoner of the charm of Bali”

黒部正也

私は二階のヒサコさんの部屋のドアを小さくノックしていた。彼女はなかなか起きてくれない。なおもノックを続けていた。突然強いトーチライトが当てられた。

「何をしていますか？」

「アナン先生からの連絡です」

「そのお部屋はヒサコ様のお部屋です」

「アナン先生は夜型の画家なので連絡は夜になるのです……」

民宿のオーナー、イダさんの当惑した表情が闇の中に浮かんだ。深夜の三時半、イダさんは夜警と一緒にゲストルームの見回りをしていたのだ。

下着姿の私が、ヒサコさんの部屋の前にいるのは極めて不自然。しかし、とっさの場合、理路整然と状況を説明するのは難しい。まさかイダさんが真夜中に見回りするとは思わなかった。

「つまり、その、ヒサコさんの今日の予定を今お聞きしたいのです。それでノックをしているのです

室外の物音に、隣室のハナコさんが先に眼を覚ました。私は手短に事情を話す。

「ねーちゃん、起きなさい！」

テラス側へ回った妹のハナコさんは、姉のガラス戸を強く叩いて大声で呼び掛けた。

やっとドアを開けたヒサコさんは、髪にピンクのカールを三つ巻いたままで、「何やの？」寝ぼけ眼の大坂弁でそう言った。

「ヒサコさんが、どうしても今日アナン先生の指導を受けたと言われたので、先ほどアナン先生に電話したところ、十時から二時まで教えてくださるそうです。

ヒサコさんどうされますか？」

と私が訊ねると、ヒサコさんは答えた。

「願ってもない幸せです。是非お願ひします！」

「アナン先生は、静かな夜に絵を描き、昼は寝ています。それで、深夜に電話したのです」

イダさんと夜警は、私の懸命の説明をようやく納得したのか、黙って立ち去った。

2004年3月。場所は、バリ島の芸術村ウブドの

民宿グヌンクニン。真夜中の出来事である。

私は、会社定年退職後、2000年6月からバリ等芸術村ウブドで絵を学びながら民宿暮らしを始めた。ウブドには、ロスメンと呼ばれる民宿がたくさんあり、その一つ、グヌンクニンを定宿に決めた。私は民宿くらしに魅了され毎年一ヶ月、妻は十日暮らすようになった。

民宿の施設はまあまあであるが、一人一室使用の開放感がたまらない。妻のヨウコと相談して、絵仲間を誘った。十五年間でお客が延べ二十九名に達した。

絵仲間と言っても、言わば大阪のおばちゃんたちである。する事なす事まるで吉本新喜劇の舞台のように面白い。涙と笑いの日々が続いた。

ヒサコさんと私は、翌朝10時に民宿の向かいのスーパーで手土産にドリアンを買ってから、アナン先生のアトリエへ民宿の車で送ってもらった。

アナン・クスタリオ先生は、ジャワ・ボンドウソウ出身で、海外からの収集家が集まるウブドにアトリエを構えた。独特のマチエールが美しい抽象画はコレクターに評価され、ウブドの著名画廊に作品が並ぶ。私は民宿暮らしを始めた2000年から、先生のマチエールに魅了され技法を学んでいる。

先生は、一年前ウブドのスエタ通りから、デンパサールのアユン川沿いにアトリエを移した。

ヒサコさんは、見かけは小柄な普通の大坂のおばちゃんであるが、絵筆を持つと七十歳とは思えない鋭い目付きに変わった。モチーフは居間に置いてあったボンゴ。カンバスにぐいくいと太鼓を描く。さすがに大手公募展入選の常連だ。

アナン先生の目付きも変わった。ジェッソを使う独特のマチエール（凹凸模様）をナイフで作ると、茶色の絵具を大きな掌につけさっと模様の上を掃くようになった。ヒサコさんも掌にオレンジ色の絵具をつけて、さっと画面をなぞる。画面の太鼓が浮き上がっててきた。

「掌で筆のように自由に描けるように毎日練習しない！」

描き上げた作品にラッカーを吹き付け天日で乾かした。アナン先生は、出来上がった太鼓の作品をヒサコさんへ手渡した。

「奇跡です。今回のバリ旅行の一番の宝物です」といしながら、彼女の頬に涙が光った。念願の技法を直接先生から教わった感激で胸が詰まったようだ。



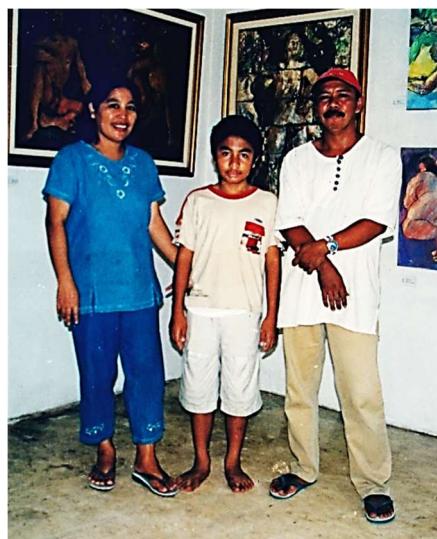
扈下がり、作品を抱えて民宿へ戻ると、
「ねーちゃん、ずるいわ！」
と、妹のハナコさんの怖い顔が待っていた。実は彼女も、地元の市展入選常連の絵描きである。
しかし、彼女は妻や友人と一緒に、民宿で催された扈の料理教室を選んでいたのだ。姉が手にした太鼓の絵の出来栄えを見て、そのことをすっかり忘れて、嫉妬した。
「タベはなんやの！ 姉ちゃんを叩き起こしてあげたのに……」
普段は優しい妹のハナコさんが、目を吊り上げたまま、また言った。



ウブドの民宿、グヌンクニン



左端ハナコさん、3人目、4人目はオーナー夫妻、
5人目ヒサコさん



アン先生ご一家



7. 2区間は難所が二つ

会員 鳥居 雄司

馬は暑さが苦手です

北海道の10月初旬は冬が間近に感じられる気候です。今回参加する60kmの出発時刻は午前7時で気温は9度でした。エンデュランス大会は区間毎の走行距離が長く、今回は30kmの区間が二つです。途中で馬に水を飲ませることを除くと、区間内はほぼ走り続けています。走行中の発汗と気温を考えて、私は気温10度まで、20度まで、そして30度からの三段階で服装を準備しています。

大会は稀に30度を越えることもあります、この場合は途中で馬をいかに休ませるかを考えます。日頃通っている埼玉県のクラブでは、今年は30度を越えることが珍しくなく、馬屋から洗い場へ出し、馬装をすると肩で呼吸をする馬もいます。1回の練習は45分間ですが、動きが悪く明らかに暑さのせいだと分かることもあり、馬上に乗せてもらえるだけで十分と考えながら過ごすことが多くありました。



会場を出るのに

出発時刻7時の気温が9度なので馬も私も快適に運動できると期待できます。1区間は川の流れに沿って上流へ走り、最高地点から折り返して川の対岸を下流へ下り、出発点に戻ります。無理のない走路で2時間30分の走行を予定しました。このコースで最も気になるのは、出発時に会場を出るあたりで飼われてい

る羊、鶏、ウサギなどの姿が馬の目に入り、見慣れない景色に緊張して止まる事です。これを避けるには、馬を走行に集中させ、わき見をする余裕なく通過するのが良いです。今回はこの方針でむかいましたが、見慣れない景色を不審に感じ、止まりました。幸いにこの牧場の馬で参加する選手が後ろから来たので、この馬に後続して会場を出ました。さもなければ、馬の腹を蹴るか、下馬して手綱を引くかして通過後に再騎乗することになります。

不審な姿、音、動きに気付くと横跳び

川の最上流折返し点まではヒザの高さ程の笹藪を登ります。私たちは同じ牧場から馬を借りて、4人が一列で走りました。先頭はこのコースを良く知っている経験者が走り、3頭が続きます。藪の中を走るために先頭の馬は何度も横跳びをしました。馬は視野が広く、不審な姿、音、動きに気付くと安全確保に十分な距離をとろうとします。動いているときは対象と離れる側に横跳びし、止まっているときは対象と反対方向に馬体を回転させることもあります。

どちらの場合も鞍にキチンと座っていれば、馬体の重心の上に人の重心が乗り、落馬することは少ないです。しかし、馬と人の重心がずれていると落馬の可能性が増します。練習で止まっているときに、馬と人が一瞬で180度回転して、落馬せずに後ろを向いたのを見たことがあります。

馬の動きに随伴(馬の動きに従った腰の動き)

初めて乗馬を体験された方は、馬にまたがると見た目よりずっと不安定で驚くと思います。鞍は椅子と比べて上下左右そして前後にも動き、不安定です。馬の歩様(足の運び)は常歩(歩き)、速歩(前左脚と後右脚、前右脚と後左脚の組で交互に地面を蹴る)、駄歩(後左脚、後右脚と前左脚、前右脚の順番で3回地面を蹴る)の3種類あります。鞍の動きは常歩、速歩、駄歩でそれぞれ異なります。馬の歩様に従って乗り手の腰が動き、馬の重心に合わせて自分の重心が伴うようになると馬も人も疲労が少ないです。

1区間の走行は

1区間では折返し点に向かう笹藪の通過に注意を払いました。走路は事前に渡される地図で確かめられます。道のない笹藪は看板や標識にかえて、途中の樹木に付けられた桃色のリボンを見つけながら進みます。



私たち 4 人はリボンを見失わないように進みました。ヒザの高さに届く箇数は地面を確かめることもできず、リボンの方向を目指し、歩みは馬に任せます。歩様は常歩で、坂の勾配に応じて上体を前傾させ、鞍の動きに骨盤を柔軟に随伴させて馬の重心に合わせながら進みます。

時々不審なものを馬が見つけて急に動きますが、緊張して体をこわばらせると落馬の恐れがあります。幸い落馬はなく折返し点を通過して 1 区間を終えました。1 区間 30km は 2 時間 30 分の走行予定を 2 時間 3 分で終えました。走行後の獣医検査を通過し、2 区間の出発は 9 時 53 分を示されました。

2 区間の難所は二つ



2 区間は川から貯水池(大会で最も高い)へ登る道の無い坂と高原地帯を経て川に降りる急坂の砂利道が馬に負担のかかる難所です。そこで走行時間 3 時間を予定して出発しました。この区間の中盤を占める高原地帯の登りに着きました。ここは 1 区間の箇数と違って木立の中を左右に向きを変えながら急な登りをします。馬の向きを変える方法はいろいろあります。初心者の頃に習ったのは、曲がる側の手綱を引くことでした。

手綱の先にある金属のハミを馬がくわえているので、片方の手綱を引くと馬は頭を引かれたほうに向けて動きます。また、向きをえるときは馬体を曲げるの、馬体を曲げる側の腹を脚で圧迫する方法があります。実際の場面では、二つの方法を使い分けたり、併用したりします。

また、馬の動きが安定していたり、速かったり、緊急を要したりする時は左右のアブミにかける体重(日頃は左右均等)を変えるだけで進行方向の変化をできます。

さて、2 区間のもう一つの難所です。川に下る急坂の砂利道は登り以上に気をつけます。下りの時は馬の前脚に負担がかかります。前脚で踏ん張りながら下ります。馬は後脚の方が前脚よりたくましく、さらに乗り手の重心も前脚に加わります。そして、砂利道は踏ん張りにくく、滑りやすく、砂利を蹄鉄に挟みやすいです。それで乗り手は馬の前脚負担を軽減させるために頭、上体を垂直に保ちます。

2 区間の難所にかかると

順調に走り、2 区間中盤、道の無い木立の登りは疲れを見せることなく順調に登りました。急な勾配では馬の首に私の胸が触れるほど前傾しました。

いよいよ川に下る砂利道にかかりました。今回は天気に恵まれ、馬の状態も良く、元気に動いています。日頃は脚を滑らせないように常歩で下りますが、今回は速歩のまま一気に砂利道を下ることができました。

そして、ゴールに至る川沿いの緩い登り道にかかりました。馬は安定し、同じリズムで運動しています。それで鞍の角(鞍の前部にカウボーイがロープ等を巻き付ける杭)に手綱を置き、私は手ぶらで両肩を回したり、体をねじったり、胸を張ったりして体をほぐしながら 7km ほど走りました。

2 区間は難所があり、3 時間の走行を予定しましたが、3 時間 20 分で到着でき、無事に獣医検査を経て、完走することができました。天候に恵まれたことが完走の要因と考えています。



8. 北米 1 (世界1) に成った途端 「ジャップ!」と言われた(1980)

・・・NO47からの続編
赤神 潔

実際、ゲアリーがワイルドタイプの・デミバフ・カテゴリーの命名者または命名責任者の1人であったと思われる。我々はゲアリーをすぐに探した。

彼は、私達のモイル・バフと呼ばれた最良ミンクを見るなり、何も言わずにユナイテッド農場の最良バンドルを探し出し、比較し始めて、初めて見たように当座をごまかすようで当惑気味のようで、考えがまとまらず(バディー・ランゲージ)、しばらく何も言わなくなつた。

ここで、ゲアリーがユナイテッド農場のミンクを持ち出したのにも、何か引っかかる節がある。

ユナイテッド農場は押しも押されぬ大規模なワイルド・ミンクのランチである。シアトル・イクスチェンジ会社の社長を辞めて、一介のバイヤーになったゲアリーにとっても、ハドソン・オーベイ・オークション会社にとっても大切なお客様である。

小規模な私達の繊細な養殖ミンクにお株を取られたくないことは明白である。私の抗議を聞き、沈黙の後、暫くして、ゲアリーは、しらばくれて、「私は関係ない。文句はこここの社長に言いたまえ!」と、自分達がグレードしたのも忘れて、あっさりと逃げる。しかたなく、私達はハドソンベイの社長に会いに行くことにした。バイヤー達は、世界中のオークション会社、ニューヨーク、タコマ、トロント、ロンドン、コペンハーゲン、レニングラード、等々を、数週間毎に飛び回って、お客様の求める品物を探している。

何十万枚のペルトから、比較的割安な質の良いペルトを探し出すのが、腕の良い彼達の商売だ。

ニューヨーク在住のバイヤーは、下見の時間が十分ある。地の利を生かして、オークションに出る全ての毛皮を、何日も懸けて十分調べることが出来る。

しかし、よその国から来る‘上物買いバイヤー達’は、下見の時間が2、3日しかない。彼等が、求めているミンクがワイルド・デミバフならば、そのワイルド・デミバフの部門か、せいぜい普通のデミバフの部門しか下見をすることが出来ないのが当然だ。

最高に良いミンクが、とんでもない色の違う、どちらかと言うと、染める為の安物の、モイル・バフ・ミンク部門に5バンドルも揃って隠してあるなんて、誰も気が付かないのが道理である。

従つて、私達のレッド・ティントのミンクは競争なしで、ニューヨ

ーク在住の勤勉な彼の手に安く落ちた訳で、自分が小便をしていることも忘れて、私を直ぐ横に見つけて、飛び上がった訳だ。

富美子と私は広いオークション会社の建物の中で、慌ててハドソンベイの社長を探して回った。

社長室でやっと見つけたと思うと、どうした訳かその社長が部屋の入り口で我々を見るなり、社長室から出て来て、事務員達と外国からのバイヤー達の交錯する混雑した大部屋へと、我々を導いた。その大部屋の中央に位置する応接セットに面して座って、大声で社長に抗議している所へ、日本の老舗の木下物産(東京の木下オークション)の木下さん(ご兄弟のうちお兄さんと思う)が通りかかった。

彼は、毛皮世界に君臨しているニューヨーク市のハドソンベイ・オークション会社の社長に大声で食い付いている、北米で唯一の日本人、いや唯一の有色人種飼育者の私を見付けて、近寄つて来て、気づかうように日本語で、「どうした? 赤神君?」と声を掛け、我々の会話の間に割つて入つた。

私が故意に英語のままで、ことのなり行きを木下さんに説明し始めると、それを聞いていた社長が私と木下さんの仲を察し、それまで、「自分は知らぬ、お前のミンクを天下のこのハドソンベイ会社がバフだと呼べば、それはバフで、お前が間違っている」と、言い張っていた態度を曲げ、折れ始めて、「それでは、このオークションが終わってから、差額を見積もって弁償しましょう」と、言うことになった。

それでは、今それを1筆何かに書いて下さい!」と食い下がると、「今はオークションの最中で、承知の通りとても忙しい。社長の私が積任もって善処する」と言う。

「いや、口約束だけでは困るので、絶対に何かに、今、書いてほしい」と、粘ると、急に声をヤクザの様に上げて、

「社長の私を信じられないのか! 私が、このハドソンベイの社長と解つて、言っているのか!」と高圧的に出た。

ロンとゲアリーが鑑別に来ていたが、このオークションで結局売れたのはバフ部門に入れられたものだけで、デミバフ部門に残された我々のミンクは売れず、オークションの後直ぐに、ボブ・グレーに頼んで、シアトル・ファー・イクスチェンジ社へ転送した。

我々がウエスト・コーストに帰つてから、受け取ったそのハドソンベイ会社からの1通の知らせに依ると、当の社長はオークションの後、辞職し、息子が社長に就任したそうだ。

従つて、弁償は貰っていない。その知らせに依ると、ウエスト・コースト受け持ちの担当のセールスマネーのグレーさんも退職して、スタッツン島に引きこもつたそうだ。これらの出来事は、我々がジャブだから、一部の彼等が軽く思つてやつたことかも知れない。

1972年に私が初めてバンクーバー空港に来た時、頼りにしてい



た小さな求人広告の切り抜きは、ニューヨーク在住の日本人毛皮ブローカー兼種ミンク・ブローカー、アンディー・鈴木氏がお客様のミンク飼育者のために、親切に出した広告だった。私は鈴木氏に付いては全く分からぬ。

アイヴィンが以前、『アンディーは、ジミーが自分でスペース農場を探して、勝手にスペースへ行ったことを憤慨していた』といつていった。彼はその時『実は、スペース農場には誰か別の日本人を紹介するつもりだった。』とアイヴィンに言ったそうだ。常識的可能性を広げて、考えてみると、そこで、英語の分からない日本人労働者が北米に来れば、彼は通訳と、安い安定した労働力の斡旋を兼ね、そのミンク飼育者に恩を売り、毛皮を扱わせて貰えた訳で、彼の仕事も増えることになる。私のようにアンディー・鈴木氏の通訳の助けを必要としない人間は、日本から来てほしくなかったのだ。アンディー・鈴木氏は北米で唯一の日本人飼育者の我々が北米のマーケットのトップを取っても、それ以後も我々の周りのB州の飼育場を訪ねて来たが、一度も我がミンク・ランチを訪ねて来たことがない。

とにかく、小さな毛皮業界の中に「私の北米進出を良く思わない」人がいたことも、事実だ。

ケアリー曰く、彼の奥さんは、「アンディーから日本語を習い始めた」そうである。当然、不正に気が付いた私が『出過ぎた釘』で、『打たれて』当然だったのかも知れない。自分で毛皮の鑑別等に立ち会わぬ飼育者が大部分で、私は分不相応に、少し出過ぎたことをし過ぎたのかも知れない。『見てはいけないものを見てしまった。』のかも知れない。しかしこのようなことが、普段、平然と綿々と米国の飼育者の間でも、なされているのかも知れない。

大多数の飼育者は家族労働に頼っているため、毛皮をオークション会社に出荷してしまうと、自分の毛皮の鑑別等には立ち会えないことが多い。自分の毛皮に印も全く付けず、オークションへすら出席することがままならないのである。彼等は、オークション会社を一方的に自発的に信用する他ないのである。

1987年にニューヨーク市のハドソンベイ・オークション会社へ出荷した際、マーケットが非常に悪くて、暇があったので、こんなことを考えた。「アニマル・ライツ運動団体があるのなら、それに対抗してヒューマン・ライツ運動団体を作れば良い。アニマル・ライツが一般から寄付を貰って、ミンク農家や毛皮やさんや食肉業者を襲って、彼等の主張を宣伝すれば、ヒューマン・ライツが毛皮産業や食肉産業から寄付を募って、それに対抗する宣伝をすれば良いビジネスになる。」

私は、このアイデアを、フロリダからオークションを見に駆けつ

けて来て、マーケットが悪くて、しょげていたトウライフのワイフに洩らしたことがある。しかし、夜、ホテルで考えれば考える程、だんだん社会の寄生虫のようで、ナスティー(汚く)に思えて来て、自分の性に合わなくなつて来た。「お互いにニマル・ライツとヒューマン・ライツが情報を交換して、協力してうまく立ち回り、ノン・プロフィット・オーガニゼイションを使ってやり、無邪気な大衆を手玉に取って、寄付を募り、自分達は給料を湯水のように取れば良い。———」

1年程後、ニューヨークからブリティッシュ・コロンビア州へ、ご用聞きに回って来たハドソンベイ・オークション会社の英國出身のセルスマント、ペアリー・ジョーダンに依ると、「トウライフのワイフは辞任した社長の息子(うちに来たノーティスによると、社長)と組んで、君の考えたヒューマン・ライツ運動をニューヨークで始めた」そうだ。彼によると、ハドソンベイ・オークション会社の社長が、ヒューマン・ライツ運動をジョージーンとしていることになった。

農業用ガソリン(またはパープル・ガス)で、不思議なことがあった。コーオプが使用量を記録して自動的に、次の配達日を予測して配達して来た。ガソリン泥棒に気づいて伝票を調べると、我々は夏も冬も同じように大量にガソリンを配達してもらっていた。

夏はミンクの頭数が冬の5倍(4千頭が2万頭)以上にもなるのに、毎月ガソリンの消費量が冬も夏も変わらないのは変に思えた。特に冬期は餌を制限して、週末は絶食、平日も1日又は2日置きの給餌がその時の気候とミンクの体調に合わせ12月から3月まで続いて、給餌機の使用量は夏の10分の1程だった。なのに、私達のガソリンの使用量が毎月夏も冬も余り変わらないのが不思議だった。

農業用ガソリンを止めた理由がもう1つあった。秋口の大量に餌をやっているある時、農業用ガソリンを使っている私のプリットン・アンド・ストラトン社の古い12HP(馬力)と富美子のコーラー社の比較的新しい20HPの2台の給餌機の空冷のエンジンの調子が同時に急に悪くなり、オーバーヒートし、エンジンの音が激しく乱れ出し、排気ガスが急にひどく黒くなり、力がなくなり、全く走れなくなつた。

もし、自分でその場で速やかに修理出来ないと、その日、ミンクに餌がやれなくなるし、それがミンクのストレスになる。毎日朝早くから、夜12時過ぎまで、予定がぎっしり詰まっていて、時間を無駄に出来ないので、応急処置として、その場でエンジンを分解することにして、シリンダー・ヘッドをはずしてみると、とんでもない程のディボジット(廃油がガソリンに混ざっているような)が付いていた。

慌ててそれを掃除して使っていたが、1週間以内にまた同じように



黒煙を吐き出し、2台が前後して不調になった。不審に思って農業用ガソリンの配達日を調べると、丁度、エンジンの不調と辻褄が合うように思える。農場にある地上2Mほどのアングルアイアンのラックの上にあるガソリン・タンクの注入口の鍵はコード式の運転手に預けたままでいた。（ホースの先のノズルには鍵をかけてなかった。）

そこで町のガソリンスタンドから市販のガソリンを買って、使ってみた。問題は見事解決した。以後、農業用パープル・ガスを使うのを止めてしまった。コオップの伝票には何らアジャストメントはなかった。

農業用パープル・ガソリンは通常少し安いようだが、これでは全く農家の助けにはなっていないようだ。以来、農業用パープル・ガソリンの使用は止めてしまった。

ミンクの値が世界中で毎年に悪くなって、ある年その年最初のシアトルのセールで殆ど飼育場の毛皮が殆ど全然売れなかつたことがあった。セールは年に3~4回あった。大部分の飼育者が青い顔をして、セールの途中に何も言わずに、こそこそとセール会場から家に帰つて行った。

オレゴン州アストリア市のあるフィンランド系のミンク屋さんティンキラ夫妻と息子夫婦が、オークション会社の入口を出る前に振り返つて「今から家に帰つて、ホーリー・トゥリー(ひいらぎの木)を売つて、ミンク・ビジネスの赤字の穴埋めをしなければー」と、急いで帰つて行った。彼らは、何か売るものがあつたのでよかつたが、売るものがミンク毛皮以外に全然ない飼育者は大変だった。

アイヴィンもトウライフも皆大変なようだ。次のセールで会つた時、アイヴィンは長年飼育場を手伝つていた自分の娘をくびにして、「アンマリーは失業保険を貰い出した！」と、言った。トウライフの奥さんも、娘のいるフロリダへ出稼ぎに行ったままだった。

唯1つ、ブラック・ミンクの飼育者で、米国のジョン・アトキンスさんと言う、世界的に最も有名な飼育者だけが何とか法外に安い値で売れた位で後は全滅となつた。私達は、日頃、懇意にしていたイタリア系バイヤーのアルバート・ボレロさんに頼んでアトキンスさんのサイズ4のメスの毛皮の束を、波乱に富んだミンク飼育場をしている記念として、富美子のために買つことにした。

大抵の飼育者の奥さん達は、ミンクのコートやミンク・ジャケットの色違いを数点持つていたが、富美子には、まだ1着もなかつたのである。

アトキンスさんの毛皮がオークションされる少し前に、「ひょっと

して今年はミンクの値が、全く悪いので、毎年、世界1のブラック・グラマのミンクでも手が出るのでは？」と気付き、飼育者用ルームから、大きな窓越しのオークション・ルームの中央にいるボレロ氏に運良く合図出来、外まで出て来もらった。

「一般的にフル・サイズのメスのコートを作るのに、サイズ3が必要だが、富美子は体が小さいのでサイズ4でも十分です」と、言うことになり、オークションされる前の彼の職人的感では、「50ドルまで」と言う予想だったので、「もし1枚が50ドル前後なら買って下さい」と、お願いした。確か1枚48ドルだったようだつた。

1987年の初夏、私達がニューヨーク市のハドソンベイ・オークション会社での売れ残った毛皮をシアトル・ファー・イクスチェンジ会社へ転送した際、カートが、「あの時(1981年)の君の担当だった、セールス・レッフ、マークと、その前の年の君達の担当のロンは、くびになつて、マークは今、タコマ市内のあるガソリンスタンドでガソリンをポンプしている、それで良いだろう？

ガソリンをポンプしているマークを見に行けばいい」と言ったが、あのオークションの前にトップ・バンドルがすり替えられて盗られ、売られて、処分された毛皮の束の契約違反の弁償はして貰っていない。マークとロンがその年首になったことは分かったが、何があったか詳細が聞きたい。

当時、飼屋のスタンの運転手でフレッドというギリシャ人の男がいて、何故か気が合つて、良い魚や鶏肉副産物を持って来てくれるようになった。ある時、荷物をトラックから冷凍庫へ移す作業をしながら私達、中小企業の愚痴を聞いていた彼が、「それでは、ミンク・ビジネスはリスクが多過ぎて、株より悪いのでは」と言ったのが忘れられない。当時、1つのこと(ビジネス)に総力を集中していたため、ミンク・ビジネス以外には全く盲目であった。

友達のアイヴィンやキャレンも、退職した現在、此れに付いては全く同感である。中小企業(ミンク飼育)の大きな魅力の1つに、毎日起きる、予期出来ない色々な重要問題、致命的な出来事を試行錯誤の上、時間と能力の限界まで発揮して、次々と解決して、乗り越えて行く満足感がある。余りそれに精通して、世界1の専門家の端くれになつてしまふと、根本の出発地点、原点へ戻つて、其れ(ミンク・ビジネスの基盤)以外の企業ことが考えられない精神状態に陥つていたのである。

良議が毎年UBCの医学部に行こうとするが、大学2年の時、大学側から、「歯学部に行きなさい」と、言われて以来、どうしてもインタビューで上手くいかなかった。



同級の友達は、その良譲に、「この大学を避けて、よその大学の医学部へ応募した方が良い」と忠告したそうだ。

(1987 年全飼育頭数 15013 頭、10472 枚出荷)

夏休みになって、BC州のテラスから、同級生が喜んで良譲に電話を掛け来て、偶然、私がその電話に出ると、彼は開口一番、私を良譲だと思って、「良譲、俺、医学部にアクセプトされたが、お前もアクセプトされただろう」と言った。

どうも、私と良譲の声は良く似ているようだ。彼は自分がアクセプトされたものだから、良譲はとっくにアクセプトされていると思って、喜んで電話をかけて来たようであった。

それでも4年間を終えて、アフター・グラデュエート・コースに行くことになり、最後にもう1年同じ大学で頑張ってみることにした。同級の友達がどんどん毎年医学部にいくのに、良譲はよく我慢したと思う。「いいよい5年目だから、今年は他所の大学にも応募させて欲しい」と言うので了解した。

まず医学部が3年制のカルガリー大学が、スカラシップ付きで早々とアクセプトしてくれた。

エドモントのアルバータ大学の医学部、トロント大学の医学部、ウェスタン・オンタリオ大学の医学部と、次から次へとどんどん医学部の入学許可が来た。しかし自分の大学、UBCは、まだ駄目だった。

「なぜ駄目なのか。インタビューに理由を聞いてみたのか」と言う私の問い合わせに、太郎は、「インタビューは、『お前は若く見え過ぎるから、医者に向かない。』と言った」と答えた。

その内、今度はどの大学の医学部へ行くべきかが問題になった。もしこれが日本国内ならば、私も見当がつかず、全くどこへ行けば良いのかがわからない。私の考え方で、カナダで1番古くて、先輩の卒業生が沢山いる、大きい大学が良いだろうから、『トロントへ行け』ということになった。

当時、良譲のUBC大学に居られた和田先生も、良譲の電話の問い合わせに答えて、「勿論、トロントが良いだろう」と言って呉れた。私が移民して直ぐに買った、ブリタニカ百科事典で調べると、トロントは確かに日本の慶應義塾より創設が古く、慶應の医学部は東大よりも古かった。かくして、良譲はトロントの医学部にまた4年間行くことになった。

エド・ホーガン伯父さんは65歳になって、やっと老年年金が貰えるようになり、その冬、1か月程掛けて、アルバータ州にいる昔の教え子を初めて2、3人訪ねて回り、喜んで帰って来た後、旅の疲れが出て、風邪を引き、1週間ほどで突然逝ってしまった。

最初、『ただの風引きた』と思っていたが、交配時期の真最中で、1分1秒単位で忙しい或る日、ラーセン夫人が電話をかけて来て、「エドがマスクイ病院に入院して、どうも芳しくない。貴方達

も今直ぐ見舞いに行った方が良い!」と知らせてくれた。

顔がひどく腫れ上がって、彼だと分かるまで時間がかかって、白人の看護婦に教えられた部屋から出直して、もう一度同じ看護婦を探し出し、「エドは本当に、この部屋にいるのですか? エドは一体どこにいるのですか?」と聞き直したほどだった。よく見ると、目だけがひどく絶望した彼だった。

私が、淳子の助けで、数年前に止めた後、いつも、「タバコをやめた方がいい」と言うと、「俺はいつ死んでも良いんだ。誰も心配して呉れる人がいないから」と口癖のように言っていたが、死ぬ前には、病院のベッドについている、柵の1方に両手でしがみ付いて、私と富美子と淳子を前にして、1言、「こんなはずではなかった! 早すぎる!」と言っていた。その看護婦は冷たくエドの方へ目をやり、「全く、もうどうしようもない、肺が完全にいかれている」と、無造作にエドにも、われわれにも気を使う様子もなく、大きな声で事務的に言い放った。

突然、心の底に大きな穴が乱暴に音を立てて、開いたようで辛かった。吸った息がそのまま喉を通った後、胸の底に今開いた穴から、どんどん漏れるようで苦しくて、当然、体のバランスも同時に失なった。体中がだんだん痺れて行くようで、早々に飛び出した病院から家までの30分程、車の中で3人共、全く何も喋れなかった。

富美子と淳子は、後部座席で、1点を見詰めたまま、口ウ人形のように蒼白になった。私の体は頭へ続く神経が切り離された、からくり人形のように、無言で運転を続けた。

=この項 完=



9. 第17期 事業報告（要旨）

前事業年度（2023年9月1日から2024年8月31日まで）の事業報告です。

（1）事業の成果

第17期はコロナ禍も収束しつつあり、徐々に＜スローライフ＞を旨とした活動が展開される1年となった。その間には会員各氏の尽力でITシステムを駆使したリモート会議等の諸活動には誇るべきものがある。また当該NPOの肝となる「情報発信事業」に関しては、リタイアメント世代を対象に発行する情報誌「R&Iりらいふジャーナル」の発行を通して、会員や交流団体への有益な情報提供が例年通り継続的に実施された。

（2）事業の実施に関する事項

- ①消費者保護のための相談事業
海外および国内の長期滞在生活に関する消費者トラブル相談等は第17期も特に無し
- ②消費者保護に係る事業者サービスの評価に関する事業
事業者評価の基準（ガイドライン）の維持
- ③情報提供と交流の促進に関する事業
R&I情報紙として、主にリタイアメント世代向けのりらいふジャーナル ニュースレターを半年毎に発行し、会員や交流団体への情報提供を実施。また、年配者の生きがいを中心とした各種文化交流活動等を実施。

（3）活動報告

第17期も先期に引き続きコロナ禍の影響があり、多くの活動は中止及び延期となり、先期同様に活動が停滞した1年となった。しかし、その間にも会員各氏の尽力でITシステムを駆使したリモート諸活動には誇るべきものがある。

また当該NPOの肝となる「情報発信事業」に関しては、リタイアメント世代を対象にした情報提供としてのR&Iりらいふジャーナルの発行を通して、会員や交流団体への有益な情報提供を例年通り継続的に実施された。

活動表は別表1を参照ください。

（4）第18期活動予定

当該NPO法人は営利事業を一切行わず、併せて多くの会員が後期高齢者であることを鑑み、今期からは

＜スローライフ＞を旨とした活動を展開する。

- りらいふ憲章の堅持
- 組織、肩書き、経歴にとらわれない自由な生き方
- 知識、経験、技術を生かして社会に貢献する生き方
- 初心に帰って新しい自分を発見する生き方
- 年間行事予定
 - ①消費者保護のための相談事業の継続推進
 - ②後期高齢者に役立つ情報提供と交流の促進に関する事業の継続推進（りらいふジャーナル活用）
 - ③運営会議、理事会、総会
 - ④講演会、セミナー、イベント、各種交流会の開催
 - ⑤健康増進セミナー
 - ⑥りらいふ落語会
 - ⑦R&Iホームページ維持・活用推進

（5）第18期役員（理事6名、監事1名）

理事	竹川 忠徳	理事長
理事	阿賀 敏雄	副理事長 関西支部長
理事	山本 昌弘	元法政大学教授
理事	太田 治夫	弁護士 元東京弁護士会副会長
理事	宮寄 哲郎	元NPO 南国暮らしの会理事長
理事	豊口 一美	事務局
監事	鳥居 雄司	事務局
顧問	渡嶋 ハ洲 夫	元キャメロン会会长
顧問	中野 寛成	元衆院副議長・国家公安委員長



<別表1 活動表>

定期的な活動内容		
・R&I “りらいふ” ジャーナル 年2回発行 47号(10月31日)、48号(5月31日) ・関西地区 株式投資教室 講師:柏原 幾松(新生投資クラブ代表) ベル・アベリにて開催(計8回) (11月25日、12月15日、1月20日、3月9日、4月20日、5月17日、6月15日、7月20日) ・運営会議 毎月第4木曜日 (Zoomによるオンライン開催)		
日付	他の活動内容	
2023年10月3日	関西地区 森本敏先生講演会	ベルウッドにて
2023年11月8日	東京地区 りらいふ落語会 お江戸両国亭	62名参加
2024年1月25日	関西地区 麻殖生健治氏講演会	ベルウッドにて
2024年7月25日	関西地区 川村輝夫氏講演会	ベルウッドにて

10. 事務局からのお知らせ

(1) 関西地区 新春特別講演会 「2025年の国際情勢と日米同盟の将来」

- ・講師 元防衛大臣 森本敏先生
- ・日時 2025年1月21日(火)
- ・開場 14:00 開演 14:30 終了 16:00
- ・会場 豊中市立文化芸術センター大ホール
- ・受講料 1,999円
- ・協賛 豊陵会
- ・主催 NPO法人リタイアメント情報センター



トランプ政権の意図を探る



森本敏元防衛大臣
大阪府立豊中高校第12期生
防衛政策、日米同盟等国際政治に精通し
民間初の防衛相を歴任。現在も、国際会
議等において防衛政策に関与すべく日々
最前線に立ち続ける一方、テレビ出演、
新聞、雑誌への投稿も多数。同氏が語る、
激動の国際情勢の裏側と今後は

発行：特定非営利活動法人 リタイアメント情報センター（R&I）

〒100-0011 東京都千代田区内幸町2-2-3 日比谷国際ビル18階 ヴィップシステム(株)内

●TEL 03-5860-9483 FAX 03-5860-9477

●事務局 E-mail : toyoguchi.k@gmail.com

●HP : <http://retire-info.org/>

(発行責任者) 事務局 豊口 一美